

第5次塩竈市長期総合計画進捗報告会 報告書

1. 日 時：平成24年2月11日（土・祝） 10：00～12：30
2. 場 所：ふれあいエスプ塩竈2階 エスプホール
3. 出席者：長期総合計画審議委員（7名）、市民懇談会委員（15名）、市長、教育長、各部長、復興推進室長、市議会議員（15名：傍聴のみ）、事務局（政策課）

4. 概 要

（1）開会

（2）市長挨拶

（3）平成23年度主要事業の取り組み状況等について（報告・評価）

各部の主要事業の取り組み状況等を報告し、1件ごとに委員22名から5点満点で採点。（各事業の採点は別紙のとおり）

平均点数は、3.95

各委員から評価の高い事業としては、

「えほんデビュー事業」4.55

「地域医療体制の充実」4.45

「老朽管更新事業(国庫補助事業) 4.41

《審議委員、市民懇談会委員の主な意見》

【誰もが安心して暮らせるまち】について

○市立病院黒字化については、高い評価をする。

○公立保育所の待機児童ゼロについて、臨時保育士の給料が他市町に比較して低水準であり、優秀な人材確保に至っていない。他市町並みの水準に引き上げるように検討されたい。

○放課後児童クラブや保育所の希望者増加の要因は、

→雇用環境、経済状況により就労する親が多くなり、増加に至ったものと考えている。震災以降の受入環境の充実が必要。

○津波だけでなく台風で冠水したことは、商業や土地の取引にも大きく影響する。公共下水道の整備や対策について教えて欲しい。

→浸水の原因として、台風15号の際は、一時間あたり44mmの降雨量があった。市内は30mmまで対応可能と整備してきた。震災により、ポンプ場が被害を受けており、国の災害査定が12月に終了したことから、国の交付金事業などを活用して早急に復旧いく。

○バスの増便など仮設住宅の利用者対策はどうなっているか。

→NEWしおナビ100円バスは午後の1便を増加、仮設住宅と市内を結ぶタクシーを運行。アンケートなどにより市民ニーズに対応した運行に努める。

○地域医療の関係について、予算金額を記入すべきではないか。

→地域医療の広い分野の中で、今回は市立病院の運営に特化した内容を記載したことから、金額的な表示はしていない。市立病院の平成23年度当初予算額としては、28億円。

○地域医療の他の分野について説明して欲しい。

→市立病院を中心に、浦戸診療所、休日急患センターなどの取り組みを、まとめて地域医療としております。本日は、主要な事業に絞って説明しているので、割愛しています。なお、休日急患センターの事業費は約3,500万円。

【海・港と歴史を活かすまち】について

○子どもパスポート事業は、別の方法も考えられるのではないかと。ボランティアとして、子どもを引率する大人にも適用できるように。

→大人のボランティアについても、2割から3割程度割引させていただいています。

○浦戸で、親子牡蠣実習事業を手伝った。これらの体験事業などを拡大していくことが重要であり、システム構築して欲しい。

→意見を参考に取組んでいきます。

【評価について】

○妥当な評価を実施したか自信がない。5段階評価を否定はしないが、3段階、例えば、児童生徒の通信簿のように、よくできた、できた、もっと頑張ろうという方法が評価しやすい。

○一人あたりの持ち点制にすると優先順位をつけて評価をしやすい。持ち点を割り振り、それぞれの事業を評価する方法など、来年に向け検討を。

○評価を数値化して、それぞれに当てはめて来年以降フィードバックさせていくこと。

【市民活動推進事業について】

○協働推進室の設置自体は高く評価しているが、狭隘や階段、駐車場など施設の充実と事業拡大を図ってほしい。

全件報告後、審議委員の副会長の宮城大学の宮原教授、会長の東北大学の滝教授から講評があった。

<宮原先生の講評>

○大変興味深く話を伺った。震災後、総合計画に沿った事業に着手し、随分進んでいるのが印象的、事業推進されたことに敬意を表す。

○主要な事業を選択しているが、選定基準が予算規模の大小か、成功事例なのか、どの観点から事業を選択されたかが分かりにくい。

○「赤ちゃんの駅」や絵本デビューなどネーミングが大変良い。これらは、事業として魅力的である。一方、BDF推進事業など内容が分かりにくいものがあり、名称により市民の皆さん分かりやすくするなどの工夫を。

○評価の仕方として、評価の視点を定めないと迷う。事業進捗の評価をするのか、内容が妥当かどうか、目標に沿った内容の複数の視点があり錯綜した。進捗具合と内容の評価は違う次元。

○次回は、事前に市で事業の自己評価をして、報告会では、それを参考にした上で評価をする方法も検討されたい。報告書では、一部事業で内容が分かりにくく、いつどこで、何を行うのかしっかり記入されたい。

○事業の連携が可能。部署間の連絡を取り、協議をしながら予算化するなどの方法を。

○定住促進のプロジェクトは、宮城大学も関わっている。商店街活性化や企業誘致など、参考となる事業が推進されており、これらと連携を視野に入れ定住促進計画を策定します。

<滝先生の講評>

○総合計画策定後に、進捗報告と評価を示していく意義は大きく、開催に敬意を表す。進捗状況の報告を受け、審議会と市民懇談会の責任として評価をする必要がある。

【評価方法・内容について】

○評価方法については、出席者に意見を伺い、資料の事前提出なども含めて、様々な対応を今後の検討課題とすること。

○市民への公開方法を工夫すること。毎年でなくても構わないが、広く市民に参加していただき、テーマを絞り評価する機会の設置を検討すること。

- 総合計画事業の評価について、震災の影響を考慮して、復旧・復興に時間と財源を投入したことから、暗黙のうちに厳しい点数をつけるのに躊躇があった。
- 事業進捗状況、ニーズや達成度に過度に集中しすぎる感がある。
- 評価の指標について、集客や支援人数といった活動指標（アウトプット指標）だけに注目することなく、その先の成果指標（アウトカム指標）を示すこと。また、市民の皆さんが感じていることや意見なども収集すること。
- 評価方法も工夫をしていくこと。例）水産加工業活性化支援事業は、主な指標が水産加工品の生産額であり、評価指標が大きすぎることから、この場合、事業自体の適正な評価が必要。

【塩竈市の今後について】

- 他の沿岸部と比較し、被害が比較的小さかったことがあり、復興のスピードも速いと考えている。これらの拠点性や集中制は、震災復興の後に高まると期待。それらを生かしたまちづくりを進めていく。
- 一人勝ちするということではなく、隣接する市町村が困難に遭遇していることも含めて、様々なまちづくりを考えていく。産業のあり方も少しずつ変化していくことが予測されることから、意識改革が必要。
- 復興の過程を良い意味でバネとして、市の発展につなげ、総合計画も推進してほしい。
- 例）震災後でも水産業の方向性は変わらず、基本的な方向性は総合計画にある。しかし、県の主要漁港を5つに集約する計画において、加工業者や漁業従事者の集約もされる。総合計画の中で、目標と取り組み内容について、将来に向けて良い方向にいくように。

- 市民活動のあり方に関連して大きな方向性として、総合計画の変更は必要ないが、市民意識は震災前後で相当変わっている。市民活動の拠点、協働推進室のあり方は抜本的に見直すべき。
- 復興の前と後で大きな変化が起きていますので、そこに目配せすること。
- 定住人口戦略プランは、今後の塩竈市に非常に重要な力になります。復興計画や総合計画と連携できる仕組み構築し、推進すること。